



ROTARY INTERNATIONAL

ロータリーを

楽しもう!



Governor's Monthly Letter

ENJOY ROTARY!

RI会長 / ヒュー・M.アーチャー

RI理事 / 千 宗室

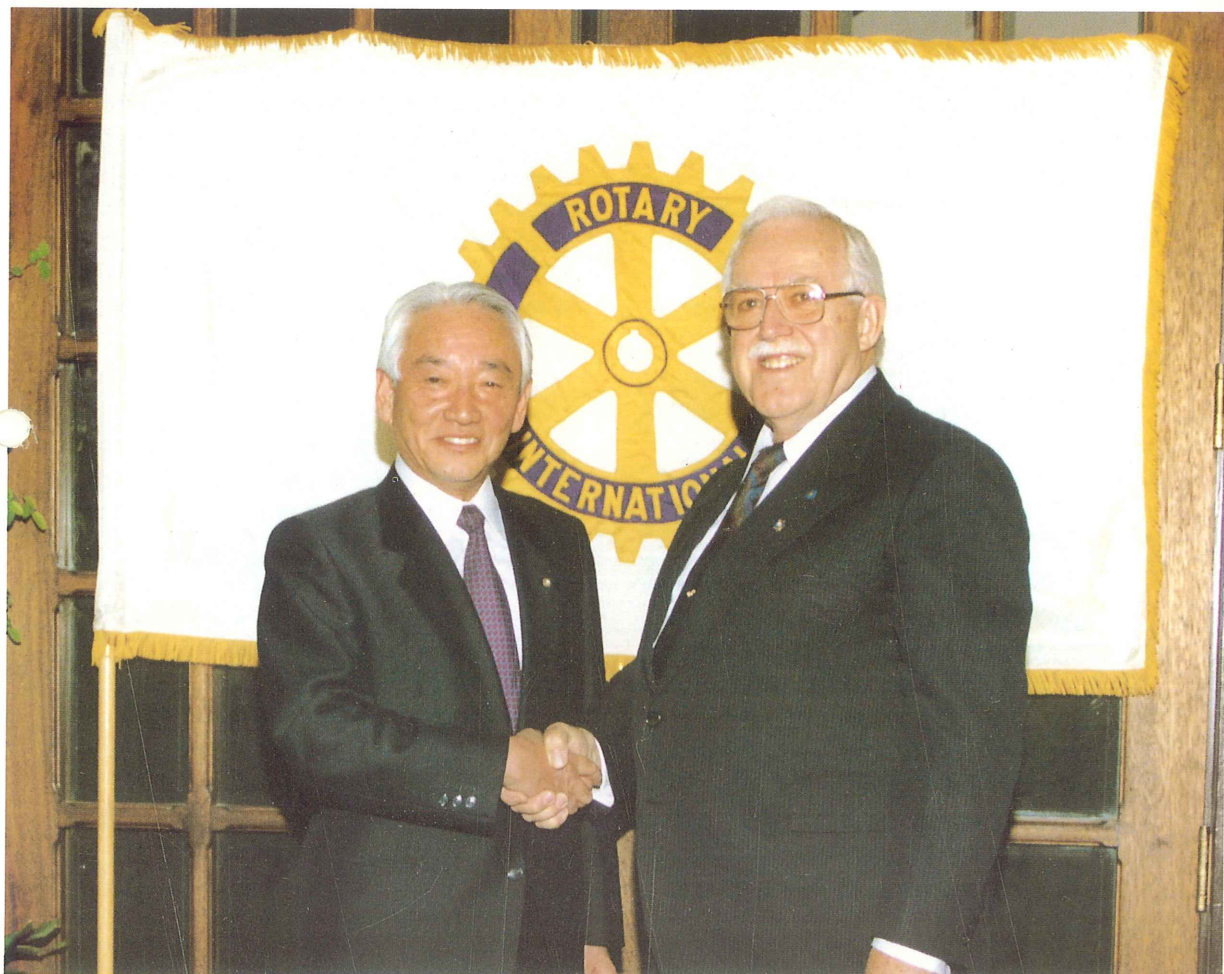
DISTRICT 276 国際ロータリー第276地区
Governor KAZUAKI MORITA ガバナー 盛田 和昭

I-19-30, NISHIKI, NAKAKU 千460 名古屋市中区錦1-19-30

NAGOYA, JAPAN PC 460 名古屋観光ホテル 527号室

TEL 052-221-1877 TEL 052-221-1877

FAX 052-221-1885 FAX 052-221-1885



ロータリーをエンジョイする方法

ガバナー 盛田 和昭

日本人は生来まじめ人間が多いから、仕事は義務と考えて一生懸命遂行しようとする。仕事をエンジョイするという様なことはなかなか難しい。ロータリーでも同様である。R.I.が決めた方針はそれが日本の風土に合うが合うまいが、とにかく実行しようとする。そして出来ることならトップの成績をあげようとする。特に出席率、増強、拡大等数字になって現れるものには一層拍車がかかる。財団寄附、ポリオプラス、何でもござれで頑張る。誠に結構なことではあるが、10万人の日本ロータリアンの中の何人がこの行動に携わっているかが問題である。

最近経済大国になったおかげで、ポールハリスフェローも米山功労者も非常に増加したが、この人達が財団奨学生や米山奨学生についてどの位の関心があるかは甚だ疑問である。社会奉仕、青少年奉仕、WCS等に関しても同様である。つまり日本のロータリーは形式が先行し過ぎていると言わざるを得ない。

今年のテーマ、“エンジョイ ロータリー”はすべてのロータリアンにエンジョイを呼びかけているのである。

そこで私が申し上げたいのは、クラブの役員さん、地区の役員さん達は自分が働くのではなく、なるべく多くのロータリアンに少しでも、一年にたった一つでもロータリーの活動に参画してもらう様にしていきたい。今迄昼食だけを食べて帰っていた人達も、一年一回だけでもロータリー活動に参画すれば多少ともロータリアンであることの意義を感じるのではないのでしょうか。名古屋クラブでは、新入会員は親睦か出席委員になって、例会毎に受付をやっています。会社や同業組合の会合では決してやらない様な事をしています。他のクラブでも勿論同じでしょう。

それがロータリーなのです。そしてその次には外部に対する奉仕活動に一度参画してみて下さい。何でも結構、簡単にできることで結構です。それでも立派なロータリアンであり、それが“エンジョイ ロータリー”なのです。

所 感

尾張第一分区代理 石井 直一



各位のご推輓により尾張第一分区代理に就任させていただいたことを光榮に存じております。一層努力いたしますので、益々のご鞭撻をお願い申し上げます。尾張第一分区は中部新国際空港の建設予定地として地元の決定をみた次第でございますので、地域開発の問題として、研究を要するところと考えております。

さて、本年度のR.I.会長ヒューM.アーチャー氏のご提唱の「ロータリーを楽しもう!」というテーマに私は非常に感銘を覚えております。私は誠に西洋的でかつ東洋的なニュアンスのあるテーマと感じております。JOYそのものが、喜ぶ、楽しむ意味を持っておりますが、ENがついたENJOYはもう一步突込んだ喜ぶ、楽しむ意味を持っているように思います。漢字的にこれをみますと、楽しむという字は木の台の上に鐘や太鼓がのっている形のごとでございます。また喜ぶという字も楽器を奏して歌い和する意味のごとでございます。楽器を中心に親睦を図り、心を結ぶことを意味しているかと存じます。東洋思想に「その道を楽しむ」という考え方がございます。例えば「茶を楽しむ」「書を楽しむ」などということが、よく申されますが、会長のテーマはまさにこの思想と符を合わせるように感じるのでございます。楽しむ、喜ぶということは、彼我一体、我と友と一体ということであり、そこに何とも言えない境地が生起しているのではないのかと思います。

会長の申されるテーマは一見表見的には、ともすれば軽くとらえがちであります。どうして、どうして、内実的には奥深いものを含んでいるように観取するのでございます。

本年は、このテーマのもと各位と共に精進努力してまいりたいと念願する者でございます。

ごあいさつ

名古屋第一分区代理 加納 泉



今般、名古屋第一分区代理にご推薦いただき身の引き締まる思いでございます。

私は、名古屋に生れ学校もすべて名古屋で卒えましたので、生粋の名古屋児でございます。

日々、産婦人科の医師として診療に従事いたしております。

私は名古屋中ロータリークラブのメンバーでございますが、第一分区の大半のクラブは私共の先輩格のクラブであると共にその歴史と伝統に負けない活力のあるクラブばかりでございます。

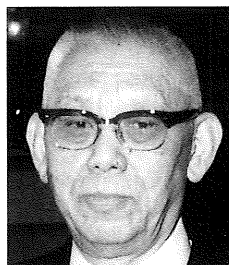
私の分区代理としての役目は何か？を思うとき、盛田ガバナーの露払いでもさせていたただければ良いのではないかと考えております。幸いにもガバナーは私の先輩でもあり、又、格式ばった事はお好みでないように拝察いたしておりますので、安心してお供が出来るものと信頼しております。

今秋のインターシティゼネラルフォーラムの折には各クラブから活発な発言をいただき、フォーラムの実をあげ各クラブの発展の資としていただければと企画しております。

どうぞこの一年よろしくお願い致します。

ごあいさつ

名古屋第二分区代理 小淵 連



国際ロータリー276地区ガバナーより、1989～'90年度名古屋第二分区の分区代理を委嘱されたので、皆さんにごあいさつ申し上げます。

「一人ひとりの力では大した事はできませんが、複数の力が合わされば、その人数の力の和以上の事ができる。それがそもそもロータリークラブ発足の理念の一つであったろう事は、想像にかたくありません。多業者集団としてのロータリークラブは、とりわけそういうものだと思います。互にクラブの域を乗り越えて志向を同じくすれば、手段と結果とは自ずと見えてくるものです。ポリオ・プラスの運動がよい例でありましょう。

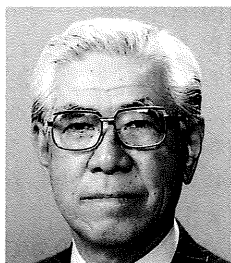
漢の高祖劉邦が、死闘の末項羽を破った後「わしは謀略をめぐらすことは、張良に及ばず、国を治めることは、しよろ何（人名）に及ばず、100万の大軍を動かして戦に勝つことは韓信に及ばない。しかし、わしはこの三人を上手に使いこなしたが、項羽はたった一人の范増さえ用いる事ができなかった。わしが項羽に勝った理由はそこにある。」と述懐したように、中国古代の歴史書に書いてあります。

「講釈師見て来たような嘘を言い」という古い門楯がありますが、歴史家も亦時に見てきたような嘘を言いますし、なにしろ紀元前200年位の古い話ですから、事の真偽のほどは保証の限りではありません。しかし大きな事をやろうと思えば、人それぞれの持ち味を、それぞれの持ち場で存分に発揮させる事の重要性をいったエピソードとしておもしろいと思います。これをロータリークラブについていえば、ロータリアンの親睦と友情の重さを考える示唆ともなりましょう。私はロータリアンの親睦をかなり重要視しております。事の始まりは、まずクラブ内部の親睦にあると思うからです。

一年間の皆さんのご協力をお願い致します。

ごあいさつ

東尾張分区代理 天野 正英



私どもの「名古屋空港RC」は昨年秋創立15周年を迎えて、心ばかりの祝典を催したのですが、そのチャーターメンバーの一員として、私もロータリー歴15年を経ました。

創立10周年の折は、たまたま会長の席に在りまして、実行委員の各位と共に意義ある式典を開いて、自祝の上で飛躍のステップを印しました。

これらクラブ自体のイベントを体験し、理事役員などを歴任して、それぞれの職責を全うすることで、ロータリー精神の一端を知ることと成った私であります。

然るに「ロータリーとは…?」、自問自答の繰り返しの中で、今に至るも明快な解答を持つに至らないのがホンネであります。

ロータリーには理想と哲学が掲げられており、綱領によって明示されておるところであります。一語で申せば「奉仕の理想」への各会員個人の追求と挺身であると思います。

わが国が国際的な立場と、平和で豊かなこの時代に、ロータリアンとしての自負と責務を担う必然性については他言を要しません。

扨、浅学菲才の私が分区代理ノミニーの推挙を受けた折「とてもその任ではありません」と強く辞退を申し出たのです。

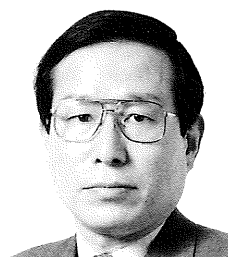
福田浩三パストガバナーからの説得電話でも、その旨を申し出たところ「写真の話でもやれば良ろしい…」と申されたのです。

写真を撮り続けて50年、写真界に奉仕して四十年の私ながら、分区内各クラブで「写真」の話でもない…ことは承知のところ、世間知らずの私にとり、まことに生涯初の重責と申す他ありません。

「NO」の無いロータリアンでありますから、この上東尾張分区10クラブの全会員各位の善意ある友情にお縋りして、与えられた職責を果たすべく、最善の努力を…との決意でございます。ご叱声とご鞭撻をお願いして、ごあいさつを申し上げます。

ごあいさつ

西尾張分区代理 横井 永忠



本年度の西尾張分区代理を委嘱されました。不安のままでのスタートですが、皆さんのクラブの充実と活力ある奉仕活動のお手伝いがいくらかでも出来たら幸いだと思じます。

分区内の会長、幹事さんを始め全会員の皆さんは新しい年度の事業計画のもと、気持ちもあらたにロータリー活動に取り組んでみえると思います。新しいR.I会長のテーマの真意を汲み取り、盛田ガバナーのご方針を理解されて、どのような活動として具現されるのかを楽しみにしております。

ENJOY ROTARY! 今年度のテーマはご承知の通りです。

あなたのクラブの中に寂しい思いをしている会員はいませんか。親睦を深め、会員同志がよく知り合い、心をゆるせる仲間となることが最も大切です。それはロータリーをエンジョイし、心満ち充実したクラブライフを約束してくれます。

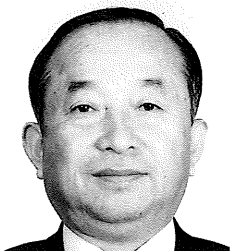
盛田ガバナーは会員全員が参加するロータリー活動を提唱されました。一部の人達が行動するのではなく、全ての会員がロータリー活動に参加し、エンジョイすることを希望されています。親睦等のクラブ奉仕、職業奉仕や社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕と色々なロータリー活動にクラブの仲間と一緒に参加出来る楽しさ、これはロータリー会員としての特権です。

私は皆さんのクラブを訪問した時には、クラブの会員の内でどれだけの方々がクラブ活動に積極的に参加してみえるかを拝見したいと考えています。どうかいつも全員の皆さんでロータリーをエンジョイ出来るクラブであって下さい。

分区代理として地区8クラブの皆さんとお近付きになれる機会を与えられたことは大変有難いことです。あなたのクラブでお会い出来る時を楽しみにしております。皆さんの元気な活躍をお祈りします。

分区代理の心境

三河第一分区代理 柴田 茂



分区代理それは青天の霹靂とは言わぬまでも私自身がまさか分区代理になるとは想像もしなかった。分区に分区代理があることは承知していたが、それが一体何であるかについて

考えてみたことなど一度もなかった。クラブの会長になって事前訪問によりその概要をおぼろげに想像する程度であった。

この2月次期分区代理としての依頼状を受けたがして何をなすべきかに就いては全くの五里霧中で戸惑った。

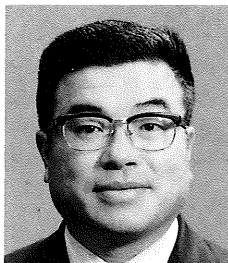
ところが幸なことに三河第一分区では次期分区代理が決定するとその激励会がパストの分区代理によって催されパストの分区代理が夫々の立場からアドバイスをする美風が今日も続けられている。この激励会にて、多くの貴重な内容を与えられることを心から期待し感謝している。

「分区代理は区内のクラブ会長とガバナーの間の連絡員であり、区内のクラブに年2回か3回位の非公式訪問をする。そしてこれらのクラブ内部の発展状況をガバナーに知らせる。」と手続要らんにある。誠に何気なく簡単な書き方であるがよく吟味してみると仲々どうして簡単に片づけられない思いがする。

そこで思うに分区代理は連絡員であることを認識し動に過ぎず静に過ぎずといったところが適当ではないかと考えこの一年分区代理としては動と静の中間姿勢で望みたいと思っている。クラブ内部の発展状況をガバナーに知らせるということについては例えば会員増強についても只単に結果のみならずその過程に於て地域内の事業があつてこそ進展も頓挫も来すものでその間の事情をよく知り加えてクラブの特色についても併せて報告出来ればと思っている。11月のI.G.Fも皆さんのご協力を得て実のあるものにしたいと念じている。何れにせよこの一年は三河第一分区11のクラブを訪問し『真の裸の付き合い』をしたいものと思うとそれが何だか楽しみの一つでもある様にさえ思えて来る。

ごあいさつ

三河第二分区代理 神谷 治



次の分区代理を高浜クラブから出すよう聞かれた会長、幹事さんが大慌てで、歴代の会長、幹事経験者を集めて相談されました。

結局、受け手が無く、「入会の古い順」ということになり、はからずも数年前に分区代理

を立派に勤められた大ベテランの神谷昭司さんに次いで古い私が名指しされました。

神谷昭司先輩とは雲泥の差で、このような役目には全く不適當で、その上近ごろ不勉強な私です。「昨年直腸の大手術をした病み上がりだから」と言って再三辞退したのですが、どなたも代わって下さらないうちに時が経ち、ガバナーや三河第二分区の皆様には申し訳ないことになってしまいました。

なぜ、不適當、不勉強かと言いますと、私が高浜ロータリークラブの会長をさせて頂いたのは、昭和54～55年で、ちょうど10年前です。

高浜クラブでは会長を勤めた者は労ってかれて、委員長を始め責任ある役が回って来ることはまずありません。それまでに覚えた知識や経験は次第に色あせてしまいます。

それだけでなく、地区の会合に出なくても済むので、地区や近隣クラブの役員の方々の面識も薄れます。

そういったロータリー関係の事情だけではありません。

私はロータリーは隠居ですが、飯の種子の瓦を造る職業は現役です。人材不足、人手不足の甚だしい小企業主で、技術屋です。

大好きだったゴルフも止め、毎日早朝より夜は八時、九時まで、作業服、安全靴で工場を廻り、机やパソコンにしがみついている時間に餓えた餓鬼のような身です。

こんな私で、大切なお役目が勤まるかを苦にしています。ただ、体を動かすのは厭わないたちですので、ガバナーのお指図や区内のクラブさんのご要望には、力不足ですが真剣に取り組むつもりです。

よろしくお引き廻しのほどをお願いします。

1989年 国際ロータリー 第276地区

地区協議会

1989年 5月28日(日) ホスト:豊橋南ロータリークラブ



第1分科会報告 会長幹事部会

リーダー	ガバナーエレクト	盛田 和 昭
アドバイザー	パストガバナー	加藤直一郎
	地区幹事	石川 和 昌
	地区会計長	小田 公 平
アシスタントリーダー	次期地区幹事	水野 喬 樹
"	" 地区会計長	楠 仙 三
"	" 地区資金委員長	加藤 龍 彰

水野次期地区幹事の司会にてリーダー、アドバイザー、アシスタントリーダー紹介のあと、まず

加藤パストガバナーが最近のロータリー活動全般についての感想を述べられた。続いて盛田ガバナーエレクトが発言された。その要旨は、出席競争にのみこだわることはないが、出席するというのがR.I.会長のいうENJOY ROTARY!の基であるから、楽しく出席出来るような会合の雰囲気づくりに力を注いでほしい。また会員増強に夢中にならなくてよいが会員が、減少しないようにはせねばならないということであった。

第2分科会報告 クラブ奉仕・親睦部会

リーダー	次期クラブ奉仕委員長	山田 昇 平
アドバイザー	パストガバナー	田 中 徹
アシスタントリーダー	次期尾張第一分区分代理	石 井 直 一
"	" 名古屋第二分区分代理	小 淵 連
"	" クラブ奉仕副委員長	山 内 彊
"	" 会員増強委員長	松 永 登
"	" ロータリーの友委員長	高 橋 義 雄

冒頭スピーチとして、アドバイザー、アシスタントリーダーの方々より、(1)クラブ奉仕委員長としての責務(2)クラブ奉仕の各委員会活動(3)特に次年度要請される親睦活動について(4)会員増強について(5)「ロータリーの友」についての認識と活用についてのお話を伺ったあと、質疑応答の形で、

「例会のあり方と会員の親睦について」の討論を行いました。

「ロータリーを楽しもう!」というテーマの下で、親睦委員長さんが地区協議会に出席されたのは恐らく初めてだろうと思いますが、クラブ奉仕委員会傘下の各委員会活動の均衡のとれた活動と、クラブ例会の充実による「満ち足りた思いの広がり」と各クラブ夫々の独自の工夫による親睦活動の大切さを痛感致しました。

新しい年度に向ってのクラブ奉仕委員長さんと親睦活動委員長さんの活発なご指導とご協力を心からお願い致します。

第3分科会報告 職業奉仕部会

リーダー	次期職業奉仕委員長	福与 碩夫
アドバイザー	パストガバナー	奥谷 博俊
アシスタントリーダー	次期名古屋第一分代理	加納 泉
"	" 三河第二分代理	神谷 治

会議の前半は主として職業奉仕の概念について各パネラーより発言を頂いた。後半は各クラブの活動予定について討論した。最初にリーダーの私より職業奉仕の起源となっていると考えられるプロテスタントの禁欲的倫理と職業について述べさせて頂き、つづいて奥谷P.G.からは具体的に公害のでない企業、防止しようとする企業であることが職業奉仕の第一歩である。加納分代理からは企業において技術の精度を向上させることも職業奉仕につながる、神谷分代理から個々の企業の向上拡大が同時に同業他社の経営を圧迫することのジレンマをどのように解決するか等の発言を頂

いた。後半は各クラブの活動予定についてご発言を頂いた。最も多いのは職場訪問であった。そこで次年度はR.I.及び盛田氏のご方針を活して、職場訪問を通じてお互いを知り合う機会が増えるよう親睦を兼ねて実施できるようお話し合いをすることができた。又R.I.からの要請のある就職斡旋、職業指導等は当地区では実際の社会的ニーズはあまりないと考えられるが、もしあるとすれば発展途上国よりの就労についてロータリーとして何か手を差し伸べることができれば新しい職業奉仕活動となりうるとご提案申し上げたところ、既に実際に発展途上国の方を採用している方から貴重な意見を頂くことができた。最後に下半期1月22日名古屋観光ホテルにて楽しい地区職業奉仕委員長会議を予定して終了した。

第4分科会報告 社会奉仕部会

リーダー	次期社会奉仕委員長	梅田 章次
アドバイザー	ガバナーノミニ	中村 繁男
アシスタントリーダー	次期西尾張分代理	横井 永忠
"	" 三河第一分代理	柴田 茂

全員が正時間に集合し開会しました。リーダーより'89~'90年度のR.I.テーマ「ロータリーを楽しく！」と、クラブにおける社会奉仕の概念について説明がありました。引き続き中村アドバイザーより世界社会奉仕のことにつき懇切な解説を頂き、出席会員全の理解を得ることができました。

前日の会議において、盛田GEは「リーダーが余り前へ出て引っぱるのではなくて、むしろ後ろから後押しする形が良い」という主旨の話をされました。ですから本日は、各クラブが実践してい

る奉仕活動を発表し、お互いの情報交換の中から何かを掴んで次年度の活動の資にしてほしいと考えています。そして本論に入ってから、地区7分区分より新旧2クラブの各委員長より発表して頂きました。その結果、大変ユニークな活動や、何周年記念事業の大きなプロジェクトを組んでの継続事業、名古屋地区15クラブの共同事業等、各クラブの活動状況がよくわかりました。また、名称は若干異なりますが530運動が各クラブに定着していると確信しました。

最後に会員諸君の活発な発言、質問と熱気の中、中村アドバイザーや横井、柴田両アシスタントリーダーより適宜ご助言を頂いて、つつがなく任を果たすことができたことを厚くお礼申し上げます。

第5分科会報告 国際奉仕部会

リーダー	次期国際奉仕委員長	井元 啓太
アドバイザー	パストガバナー	福田 浩三
アシスタントリーダー	次期国際奉仕副委員長	加藤 博
"	" 青少年交換(4)委員長	木本精之助
"	" 世界社会奉仕(4)委員長	安藤 幸治
"	" 国際友好(4)委員長	大竹 和美
"	" 国際奉仕(4)委員長	日比 栄一

小委員長の概要説明40分、活発な質疑に対し福田アドバイザー以下のベテランが応答して1時間半の討議は実りあるものだった。

1、友好関係、通常の姉妹提携の形式等にこだわることなく、おおらかな気持ちで、親善の実をあげることが大切である。

2、青少年交換、また派遣、受入れの経験のないクラブでも例えば帰国交換学生を招いて話をきくだけでも国際理解への前進である。

3、世界社会奉仕、従来の地区レベルでの大活躍は一面、各クラブ、ロータリアンの参加意識が弱まるおそれがあり、技術的なお世話はするが各クラブの主導性を喚起するように努力する。

4、新しくR.I.から要請のボランティア活動を慎重に検討をしましょう。

要するに、数とか形とかの実績誇示は第二であり、大多数のロータリアンに国際奉仕の原点にかえて、地道な活動をして頂くように、各委員長が努力しようという結論になった。

第6分科会報告 青少年奉仕部会

リーダー	次期青少年奉仕委員長	福山 巧
アドバイザー	パストガバナー	佐藤 知雄
アシスタントリーダー	東尾張分区代理	天野 正英
"	" インターアクト(4)委員長	岡田 一秀
"	" ローターアクト(4)委員長	中根比呂志

各クラブより熱心なご討議を頂きました。前年度に地区として初めて事業の成果について各クラブより提出されたアンケートをもとに進めましたが、資料不足で出席RCよりご注意を頂きましたが全体としてはご理解を頂いたのではないかと思います。ローターアクト、インターアクトクラブ

ブ結成による拡大、及び増強について各委員長より説明し、ご理解を得、次年度テーマ、楽しいロータリーに向って青少年奉仕も本年度より特別予算が計上されたわけでありましたが、有効に各クラブの方々のご援助を幾分でも地区会計にて補助させて頂きたく存じますが、まだまだ十分とは言えません。青少年奉仕は若い青少年と共に歩まねばならない事業であります。地区分割に向っての一年間、クラブ増強に邁進します。皆様の力添えになれば幸いです。最後までしっかり勉強して頂きまして有難うございました。

第7分科会報告 R財団・米山記念奨学会部会

リーダー	次期R財団委員長	服部 英一
"	" 米山記念奨学会副委員長	米田 春雄
アドバイザー	ガバナー	高沢 隆
アシスタントリーダー	財団奨学金委員長	小山 福松
"	次期奨学金(4)委員長	小出 忠孝
"	" 財団学友会(4)委員長	深見 章
"	" R財団副委員長兼	堀田 逞二
"	ポリオプラス(4)委員長	

ロータリー財団の主なプログラムを紹介。その内276地区として継続的且つ重点的に行っている財団奨学生派遣事業につき募集要綱のプリントを配布し説明を行った。又この事業の大切な資源として引続きロータリー財団への一般寄付を推進して頂くよう各クラブ委員長へ要請した。特にポリオプラス寄金との関係で相対的に一般寄付が減り2、3年先の奨学生割当枠が減る恐れがあるのでドルレートの動向とも考えあわせ財団一般寄付を促進して頂くようお願いした。尚、財団学友会、ポリオプラスの現状についても説明が行われた。高沢ガバナーがアドバイザーとして出席されたこともあり活発な質疑があり有意義であった。

地区協では皆さん一生懸命に勉強されたと思います。私ども第7分科会、特に米山記念奨学会部会にご出席の方々は、米山について初めての方ばかりでしたので、まず米山の歴史的経過についてお話しをしました。ロータリーの中で「米山」はややもすると特殊な存在感があって、自分が真剣になってその立ち場でその話を聴くことに若干馴れないための抵抗感があつたかも知れませんが、地区の寄付の状況、各クラブの特別寄付と普通寄付についてお話しをする段階ではほんとうに喰い入るように聴いて頂きました。米山奨学生の現状、世話クラブとカウンセラーの関係等現実の問題に及ぶと熱を帯びた真剣さでとり組んで頂きました。9月に米山委員長会議を開きますので各クラブの身近な寄付の推移についてはそのときにということで終りました。アドバイザー高沢ガバナーのご配慮で十分時間を頂きました。有難うございました。

お知らせ

1991～1992年度

地区ガバナー・ノミニ候補推薦について

1991～1992年度のガバナー・ノミニ候補として、適切な方を地区指名委員会で求めることになりました。各クラブにおいて適切な会員を地区指名委員会に推薦して下さい。

尚、地区ガバナー・ノミニ資格条件として、手続要覧の国際ロータリー細則の第12条第7節の(b)地区ガバナー・ノミニの資格条件を満たすことが、必要となります。

締切は、9月30日必着となっていますのでご注意ください。

地区指名 委員長 田中 徹(パスト・ガバナー)
委員会 委員 高沢 隆(")
盛田和昭(ガバナー)

—お詫び—

ガバナー月信No.1の8ページにミスプリントがありましたのでお詫び方々ご訂正お願い申し上げます。

上段表内(誤)'89年5月12日～13日
(正)'90年5月12日～13日